

Science Report of Kushiro City Museum

釧路市立博物館報

NO.420



2017.9

釧路の海の水中撮影

釧路市に生まれ育った私が、平成28年度に釧路市立博物館の展示リニューアルの水中の映像と写真を担当させて頂いた事は、大変うれしい事でした。

半世紀前の話ですが小学校の遠足で見た、阿寒湖で茶色い湖面にプカプカ浮く緑色のマリモと火山活動を彷彿させるボッケは印象深いものでしたし、愛国地区はほぼ湿原の中で、多くの水たまりや小川が日頃の遊び場でした。釧路川と旧釧路川を繋いだ運河も良く通いました。エゾアカガエルやゲンゴロウを追い回し、エゾトミヨやカワヤツメを獲って遊びました。紅茶色の川底に光る黄銅鉱を見つけるとは宝物を発見したと、子供心に夢を膨らませましたものです。

トンケシの浜で打ち寄せた流氷に乗って遊び、流氷の間隙から見えた海底のイトマキヒトデが鮮やかだった事が今でも鮮明に記憶に残っています。新富士の浜では打ちあがる石炭や北寄貝を拾って喜んでいました。

ただ、子供の頃から大人になるまで、真夏でも冷たい海に入って遊ぼうとは思いませんでした。しかし、友人から借りたウエットスーツを着

て、桂恋の磯で水中マスク越しに見た海中の世界は新鮮で驚きの世界でした。間近にみるウニの大きい事、1匹のスジアイナメが目の前を悠然と泳ぎ、赤い爪が目立つハナサキガニの闊歩する姿に感動しました。

異次元の世界を垣間見た事が、私の人生を大きく変えることとなります。スキューバダイビングを習い、ダイビングのインストラクターとなり職業ダイバーにまでなりました。釧路の海は通年ウネリがあり、ダイビングのポイントとしては適していなかった為、ダイビングの活動はもっぱら知床の海が中心となり、平成元年には有限会社知床ダイビング企画を立ち上げ、知床の羅臼町に移住して現在に至ります。知床の海にこだわって映像や写真を撮り続けて来ましたが、何時かは釧路の海や湿原をテーマに作品を撮りたいと強く思っており、この度の企画に大いに感謝しています。

関 勝則

(水中写真家／プロダイバー／
知床ダイビング企画代表)

9月号目次

釧路の海の水中撮影	関 勝則	2
釧路市幣舞遺跡出土亀ヶ岡式土器の胎土中に含まれる海綿骨針の意義(予察)	飯島 義雄・金子 稔・野村 正弘 石川 博行・澤田 恭平・横山 英介	3
探そう! 北海道の虫	掘 繁久	9
チャランケチャシ	城石 梨奈・戸田 恭司	11
博物館ニュース		12



トドを撮影する関氏

〈表紙写真〉 海辺の砂浜に生えるスゲ、エゾノコウボウムギ(釧路市音別町の海岸にて)。湿原の植物という印象が強い「スゲ」ですが、海岸の砂浜や高山帯など、さまざまな環境に生育しています。博物館では4月29日から6月25日まで、釧路湿原国立公園指定30周年記念企画展として「スゲの世界～初夏のスゲまつり」を開催しました。(加藤ゆき恵)

釧路市立博物館館報 No.420 2017年9月号 2017年(平成29年)9月30日発行

発行 釧路市立博物館 〒085-0822 釧路市春湖台1-7

☎ 0154-41-5809(博物館)・43-0739(埋蔵文化財調査センター)/ FAX 0154-42-6000

釧路市立博物館Web <http://www.city.kushiro.lg.jp/museum/>

museum@city.kushiro.lg.jp(博物館) maibun@city.kushiro.lg.jp(埋蔵文化財調査センター)

発行責任者 白幡 敏弘 編集 貞國 利夫・石川 孝織 印刷 (株)藤プリント